

3・11から早や3年 被災者の多く—生活設計いまだ立たず
 遠のく復興—相続登記されていない土地多く、用地買収が最大のネックに
 工事の入札3割が不調—労務費と資機材の不足・高騰が原因
 人口の流出止まず—気仙沼市、震災前より6,252人減、過疎自治体に指定される
 【そんな中で、被災者の人達は、全国の人達との絆を心の糧として、亡くなった人の分
 まで生きなければと、前向きに生活をしています】

* 避難者数 26万7,419人（内 Fukushima 8万5,589人）	* 死者 1万5,884人
* 行方不明者 2,636人	* 震災関連死 2,989人（内 Fukushima 1,671人）
* 避難者数 26万7,419人（内 Fukushima 8万5,589人）	
* 仮設住宅入居戸数 10万4,050戸（内 Fukushima 3万7,696戸）	
* 仮設住宅入居者数 24万4,884人（内 Fukushima 8万5,587人）	

復興の誓い新た

3月11日は被災地にとって、特別な日です。気仙沼でも、午後2時46分に防災無線から黙とうをするための放送とサイレンが鳴り渡りました。市民の人達は、海の方を向いて、亡き人を思って黙とうをしました。

追悼式場での献花は、午後7時まで出来るので、6時頃、私達応援職員の何人かは「追悼式場に行きたいので、今日は早く帰ります」と係長にことわりました。すると私は係長から、「上田さんは献花をする時に、これからも復興のために一生懸命仕事をしますとついでに誓ったら」と言われました。（心を入れ替えろということなのか？）

「追悼式は市総合体育館で行われ、遺族ら1,300人が参列した。

鹿折小学校4年生による献唱、地震が発生した午後2時46分に黙とうをささげた後、菅原市長が「いまだに約1万人が仮設住宅で生活しており、一日も早い解消が犠牲になられた方々の供養によると思う。復興にはいくつもの困難があるが、やり遂げなければならない」と式辞。谷公一復興副大臣、臼井真人市議会議長が追悼の辞を述べた。

続いて、震災で妻を亡くした佐藤正典さん（63）、祖父が行方不明のままとなっている小野寺龍紀さん（20）が遺族代表の言葉を述べた。佐藤さんは、内の脇で経営していたギフトショップで、妻と2人で津波にのまれた。「妻に生かされた命。前を向いて生きてほしいと、妻は願っているだろう。一歩ずつ、少しずつ前進していきます」と涙ながらに誓った。

小野寺さんは高校2年の時に被災した。気仙沼高校の避難所で1週間過ごし、大島の自宅に戻ったら祖父が漁に出たまま戻っていないことを知った。「震災を後世に伝えることが大切。祖父を捜索していただいた多くの方々に心から感謝します」と語った。

この後、献花が行われ、遺族、参列者が次々と祭壇に花を手向け、犠牲者の冥福を祈った。」（「三陸新報」14年3月12日付け）

【気仙沼市の追悼式会場—市総合体育館、向かって右側の献花は村井宮城県知事、左側の献花は安倍総理大臣】



【市役所で黙とうする職員—黙とうしないで写真を撮って、私自身深く反省】

